

## 第16回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年8月9日(火) 午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>  
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史  
県農林水産部水産局漁業資源課長 石黒 宏昭  
県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 小嶋 一隆  
<その他>  
県関係職員14名

### 4 検討事項

- (1) 資源評価基準について
- (2) 令和4年度資源評価対象種の選定について
- (3) 千葉県資源管理方針の変更について
- (4) その他

### 5 検討事項の概要及び検討の結果

#### (1) 資源評価基準について

事務局から資源評価基準は変更せず、これまでどおりの基準で評価を行う案が説明され、構成員から特に意見はなかった。

#### (2) 令和4年度資源評価対象種の選定について

令和3年度に資源評価した35魚種について引き続き評価するとともに、今年度は、昨年度評価票(総合判断A)を作成しているキンメダイ等16魚種にトラフグを追加した17魚種の評価票を作成する案を事務局から説明した。

構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、東京湾のサヨリについてどのように漁獲情報を収集しているか質問があり、担当者から基本的には研究センターの漁獲情報データベースで収集している旨回答があった。
- ・構成員から、トラフグについて本県の資源と伊勢三河湾系群の関係について質問があり、担当者から今年度から国の調査に参画予定であり情報蓄積に努める旨回答があった。
- ・構成員から、ホンビノスガイについて今後どの程度調査していけば評価票(総合

判断A)の作成ができるか質問があり、担当者からは漁獲努力量を正確にとらえることが難しい魚種である旨回答があった。また、他構成員から資源評価は重要であるが、資源評価票の作成ができない魚種であっても漁業・資源情報を蓄積し漁業者がどのように資源を管理していくかについて提案できる形が重要である旨の意見があった。

- ・構成員から、今後総合判断BからAにできそうな魚種について質問があり、担当者からはサヨリ、タチウオで検討している旨回答があった。

### (3) 千葉県資源管理方針の変更について

事務局から、千葉県資源管理方針の変更案（TAC魚種以外の個別方針の追加）と今後のスケジュール等について説明を行った。

構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、新たなTAC魚種候補として議論が行われている魚種について、仮にTAC魚種となった場合、国の目標と県の目標の2つの目標ができることになるか質問があり、担当者から仮にTAC魚種となった場合は国の目標のみになる旨回答があった。
- ・構成員から、TAC魚種について資源管理協定の対象となるか質問があり、担当者から対象となる旨の回答があった。

### (4) その他

事務局から今後のスケジュールと次回の資源評価会議の予定を説明した。